

## H30 秋の課題作文〈塾長講評〉

今回は「成年年齢引き下げを見据えて」というテーマでした。今年六月に改正民法が成立し、中学二年生以下の皆さんからは十八歳が成年となることが決まっています。その一方で、今年五月の国会では「成年と成人がイコールかは一概には言えない」という法務大臣答弁がありました。私自身が何かもややしたものを感じたので、「成年」と「成人」にスポットを当てて皆さんに理想の大人像を述べてもらおうと考えました。身近な大人を思い浮かべれば書き易いのではないかと予想していましたが、苦戦している作文も多かったようです。課題作文には正解があるわけではありませんが、金賞や特別賞に選出された作品とこの講評を見比べて参考にして欲しいと思います。

最初に小学部金賞受賞作品です。この作品の中盤では、まず大人と呼べない人を定義して、その後に理想の大人像を描いていました。これが読み手の共感と理解を高める効果をもたらしたと感じます。そして、自分自身が述べた理想の大人像に近づくために、自分がこれからどうしていきたいのかを述べているところが素晴らしかったです。

次に中学部金賞作品二つです。一つ目の作品は、成年年齢引き下げに関する自分自身の意見とその理由を明快に

述べた上で、大人の三つの要件に話を展開してから自分自身が目指す方向性に話を広げ、最後に冒頭の理由で用いた「未来を創っていく」という言葉に帰結していく構成でした。流れがとてもスムーズな点が高評価につながりました。もう一つの作品は「若者が新たな日本を築いていくので、自覚を持たせるためにも成年年齢引き下げに賛成だ」と論じ、その上で話題転換を図って、今まさに政府で検討している少年法の対象年齢についての考察を述べていったところが秀逸でした。

最後に特別賞受賞作品です。こちらは後半部の表現がとても印象的でした。「私が考える大人とはボーダーラインを理解している人だ。つまり、社会の常識を分かっている人だ。」中略「立派な大人になるためにはたくさんの経験をし、失敗を乗り越えることが必要だ」というくだりが心に残っています。

繰り返しになりますが、ぜひ受賞作品に目を通してみてください。「いいね!」と思うところをぜひ採り入れてください。そうすることで多角的な視点や多様な表現を習得できるようにするはずです。このコンテストが、様々な面で皆さんの成長につながることを切に願っています。